

令和 7 年 6 月記者発表

質疑応答の概要

市の取組

①総合病院誘致の公募開始

Q.

募集要項の 10 ページの審査基準ですが、110 点満点ということでしょうか。
また、配点について留意したことなどがあれば教えてください。

A.市長

満点は 110 点になります。特に留意したこととしまして、今回の公募では医療の地域連携を重視しております。単に救急・急性期を担う病院を誘致することのみではなく、誘致する新病院を核に、既存の公立黒川病院や富谷・黒川 4 市町村、黒川医師会を含めた地域の医療機関等での連携を深めて、医療体制の新しいモデル作りを目指しておりますので、そういったプラットフォームの確立に関することを、高い位置付けにさせていただいております。加えて本市は子どもが多い自治体ですので、小児医療を充実させていただきたいとも考えていたところです。さらに、本市周辺は精神医療が脆弱な地域ですので、この辺は加点の対象とさせていただいているところです。なお、審査基準については、県のご指導をいただき、公募を実施した他自治体の事例も参考にしながら設けたところです。

Q.

募集要項案を先日公表されていたと思いますが、それに対して現段階で医療機関から問い合わせなどありましたか。また、公募受付を本日 9 時から開始したばかりではありますが、現段階で応募する医療機関はありましたか。

A.市長

5 月 28 日(水)の定例記者会見で多くの報道機関の皆さまに出席いただき、テレビや新聞などで大きく報道していただきました。また、同日、県が開催している医療（宮城県地域医療構造調整会議）に関する会議におきましても、本市が実施する公募について説明をいただきましたので、広く対象となる医療機関に周知が行き届いたものと認識しております。複数の医療機関から公募内容に関する確認の問い合わせをいただいていたところです。なお、本日 9 時から正式に公募の受付を開始したところですが、現段階で応募はございません。

Q.

市長として、どのような総合病院に来てもらって、富谷・黒川地域の救急医療を支えてほしいと考えているか、改めて思いを聞かせてください。

A.市長

富谷・黒川地域には救急・急性期を担う総合病院が不足しているということで、県平均よりも救急搬送時間がかかってしまい、救急搬送中に心肺停止で命を落とす方がいらっしゃる現状があり、こういった状況をなんとかしてでも解消したいという思いがありました。これは富谷・黒川地域全体の課題ですので、まずは救急・急性期の患者を受け入れる体制が整っていることが1番大事であると思っております。また、新病院を誘致するにあたっては、新病院を核に公立黒川病院との医療連携や富谷・黒川4市町村、黒川医師会を含めて新たな医療全体のプラットフォームを構築して、地域医療体制の充実をさらに図っていきたいという思いを強く持っております。

Q.

医療機関から問い合わせがあったとのことですが、病院側からとしたら、財政的な支援や交通アクセスなどを特に気にされるのではないかと思います。交通アクセスについては、都市型自走式ロープウェイの導入についての議論も始めたところだと思いますが、こういった問い合わせには市としてどう回答されているのでしょうか。

A.市長

新病院を建設すると、大きなイニシャルコストが発生しますし、ランニングコストも経営が安定するまでは大変な部分があるかと思います。イニシャルコストについては、国の都市構造再編集中支援事業を活用して、補助対象経費の上限が21億円ですが、その2/3(14億円)が補助の対象になっております。そのうち、国で1/2を負担していただくということで、その程度の補助を行っていくことができると考えております。県にも支援を要請しております。県議会の常任委員会に置いて県保健福祉部長が過去の病院建設に20億円の補助をした経緯があるということを発言されておりました。村井知事からはぶら下がり取材において、支援をしていきたいとの方向性はお示しいただいております。なお、県へは私を含む富谷・黒川4市町村長でお伺いし要望させていただいております。ランニングコストは、病床数や診療内容などによっても事情が変わってきますので、応募いただいた段階で医療機関へ相談させていただきたいと考えております。しかしながら、何かしらの運営支援は行っていきたいと考えております。交通アクセスについては、泉中央駅からのシャトルバスを運行させていただくということをご案内しております。これは当初、東北労災病院を誘致する段階で宮城交通株式会社とも協議させていただいておりましたので、シャトルバスの運行で、患者の皆さまはもちろん、医療従事者の通勤にも不便がないようにしていきたいと思えます。なお、軸となる公共交通につきましては、令和7年度は都市型自走式ロープウェイが導入可能かということを含めて、調査をスタートしたところです。その結果を踏まえながら、さらなる公共交通の充実に向けた取組を進めてまいります。

Q.

20億という数字は過去の例え話として出されたものですか。

A.市長

その通りです。過去に新病院を建設するにあたって、県が適当と判断した場合は、複数の病院に約 20 億円程度の支援を行ってきたということを県の常任委員会で保健福祉部長が示されております。本市においても同程度の支援をいただけるものと考えております。

Q.

現在、県からの財政支援については、担当者レベルで協議している段階でしょうか。

A.市長

本市から県へお願いをさせていただいております、前向きに検討していただいているところです。

Q.

公募中に応募があった場合、応募があった旨はその都度、市から公表いただけるのでしょうか。

A.市長

応募をいただいたその都度、公表することは難しいため、6 月 20 日(金)に応募を締め切った段階で、公表させていただければと思います。なお、具体的な医療機関名については、公表することでその医療機関に迷惑をかける可能性も考えられるので、本市から公表することは控えたいと思います。

令和 7 年第 2 回富谷市議会定例会提出議案

①令和 7 年度 6 月補正予算の概要

Q.

主な事業の公共ライドシェア事業について、公共ライドシェアの導入に関する実証運行を行うとのことですが、この点についてもう少し詳しく教えてください。

A.交通政策推進室長

公共ライドシェア事業ですが、4 月に国の補助採択を受けまして、今後、国へ交付申請を行う形となります。事業の中身については、市内における夜間の交通空白、市民バスが終わった時刻あるいはデマンドタクシーが終わった時刻以降の夜間の時間帯に、一般市民の方がドライバーとなって一般車両でライドシェアを行うという実証運行の取組となります。本市の公共交通会議に参加している委員の皆さまと議論しながら事業を進めていきたいと思っております。

Q.

子どもにやさしいまちづくり事業について、この事業費は子どもと高齢者をつなぐ企画の実施費用ということでよろしいでしょうか。

A.とみや子育て支援センター所長

この事業費の内訳としましては、企画の実施に係る経費に加えて、こども家庭庁のモデル事業であることから、啓発のため 3 都市を会場に開催予定しているキャラバンへの参加に交通費や人件費などを含めたものになっております。

Q.

子どもと高齢者の交流を促進する企画というのは、既に具体的に決まっていますか。

A.とみや子育て支援センター所長

現時点では、妊娠期から小学校 1 年生ごろまでの 100 カ月の子育て世帯とシルバー人材センターの高齢者をつなげる取組になります。この取組に大学生も含めて、高齢者にとっては生きがい創出、子育て世帯にとっては孤立しない子育て、大学生にとっては、プレコンセプションケアの一助になるものと考えております。

Q.

スイーツステーション運営事業について、施設に認知向上に向けた情報発信等にかかる経費とありますが、こういった情報発信を行っていきますか。また、運営に必要な施設備品にかかる所要額とありますが、こういった備品ですか。

A.産業観光課長

施設の PR として、チラシや各種 SNS での発信、Web ページの作成費用ということで合計 200 万計上しています。スイーツステーションのカフェに使う備品は、例えばコーヒーメーカーなど動かせるような備品で、事前に準備できるものを購入する費用です。今後、運営事業者は公募にかけていきます、公募の結果、選定された事業者の方と機器類の選定を行いながら充実を図ってまいりたいと考えております。